

十島村教育委員会だより 平成29年12月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

12月・・・新船命名・進水式

十島村教育長 有村孝一

去る11月19日、かねてより建造中の新船の「命名・進水式」が山口県下関市の三菱重工下関造船所で行われました。村からは、村長以下役場職員25名、村議会議員8名が参加しました。造船所は、目の前に歴史に名高い巖流島をそして、その左手には、関門橋が見渡せる風光明媚な場所にあります。



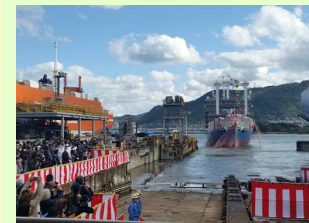
この日は日曜日でしたが、通常休日に進水式が行われるのはめったになく、そのためか、近所の方々も大勢来ていました。また、対岸の福岡からも来ておられたようです。村からもたくさんの方々に来ておられて、進水式を見守っていました。

式では肥後村長が新しい船名「フェリーとしま2」を発表しました。続いて松下議長が支綱を切りました。すると船体にくりつけられたくす玉が割れ、ゆっくりと海に向かって滑り出しました。同時に造船所の吹奏楽部の演奏が始まり、見守っていた約800人からは大きな歓声と拍手がわき起こりました。まさに、この日のクライマックスの瞬間でした。

進水式を見るのは初めてのことでしたが、船底と同じ高さから見上げる新船のたたずまいはまさに偉容でありました。自分がこれから乗って島々を行き来するこの新船が、水面に向かって目の前をスーッと静かに滑り込んでいく様は、何とも言えない光景であり、何とも感慨深いものでした。わずか数秒のほんの瞬間的な出来事でしたが、まるで映画のワンシーンとしてカメラで切り取られたスローモーション映像のように、新船の姿は、今もしっかりと焼き付いています。

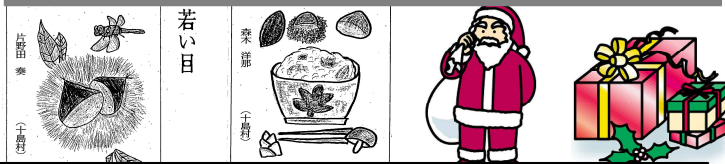
これからは、船の内装を仕上げて3月に引き渡されることとなります。新船は、これまでの船にはなかった様々な工夫がなされ、新たな設備も整備されています。長時間の船旅がより快適になることと思われまふ。

今後は、引き渡しの後、2回の試験航行を行い各島での港の離接岸をテストします。3月16日は鹿児島市で、3月20日は奄美市で就航式が行われます。その後、4月2日に正式に就航します。



これから「フェリーとしま2」は、村民の夢と期待を乗せて、トカラの島々を往来することになります。「汽船もまた道路なり」この文園元村長が言われた言葉が脳裏に浮かんだ一日でした。

- 祝1 県学校環境緑化コンクール 優良賞 中之島、平島、諏訪之瀬島**
- 祝2 県統計グラフコンクール 学校賞：諏訪之瀬島小・中学校**
小学生の部入選 田中絆造(諏:6年) 佳作 山中悠暉(諏:6年)
中学生の部佳作 秋庭吐火羅(諏:3年) 奨励賞 平田一華(宝:1年)
- 祝3 第60回県作文コンクール 入選 久永ひかり(悪:6年「少の行動」)**
- 祝4 税の作文 優秀賞 山中雪嘉(諏:中3)**
- 祝5 青の俳句大会特選 岩下猛司(小:中1)**



シリーズ——十島村で学ぶ 悪石島中2年 久永太陽

「自分を見つめ直して」

私は、小学校5年生の時に悪石島にやって来ました。それまでは商店が家のすぐそばにあるような生活だったため、最初は島に行くのが正直嫌でした。友達との別れが一番辛かったです。でも、いざ島にやって来てみると、そんな不安は一気に消え去りました。その理由は、本土とは違う「静かな暮らし」でした。島では、昼でも夜でも車や人の騒音はなく、平和でゆったりとした時間が流れています。今まで経験したことがなく、素晴らしいと思いました。

また、島の学校にも驚きました。ほとんど1対1の授業で、学校自体が小さく、最初は大丈夫なのかと、心配しました。しかし、大きな学校とは違い、分からないところはすぐに聞くことができるので、学力は以前より格段に上がりました。小学校の頃、宿題をすることができていなかった私でしたが、極少数の指導のお陰でその大切さを理解することができました。

今の私は、初めの頃とは違ってこの島のことが大好きになりました。この島で多くのことを学び、この島で成長してきました。しかし、高校生になる時には必ず島立ちすることになります。残りの一年半という時間をどう過ごすか。今まで以上にたくさんの思い出を作ったり、自分が望む高校に入ったりできるように、悔いのない毎日を過ごしたいと思っています。

シリーズ——十島村で学ぶ かわいい牛 宝島小4年 池亀 心優

宝島小学校4年の池亀心優です。今年で宝島に来て2年目になります。今年もいろいろな学習があります。毎月一回学校から二十分ほどのところにある牛舎に行ったり、いろいろな体けんをさせたり、牛の体をあらったり、牧草のひりょうまきなどをしてきました。牛舎の周りには、いろいろな草や花が咲いていて、牛たちが嬉しそうに食べています。牛舎の周りには、いろいろな草や花が咲いていて、牛たちが嬉しそうに食べています。牛舎の周りには、いろいろな草や花が咲いていて、牛たちが嬉しそうに食べています。



Xマスプレゼントとして、今年も、JAさんから学用品、吉留建設さんからケーキのプレゼントがありました。



シリーズ——十島村で学ぶ オーストラリアで学んだこと 平島小学校6年 上田 ラナ



本年度で六年生になった上田ラナです。平島での小学校生活もいよいよあと少しになりました。オーストラリアに行き、いろいろなことを学びました。オーストラリアでは、学校でいろいろなことを学びました。オーストラリアでは、学校でいろいろなことを学びました。オーストラリアでは、学校でいろいろなことを学びました。

採用直前の死に教員の自覚再び 教員 池田 修 (平成29年11月2日南日本新聞「ひろば」掲載)

先日、鹿児島県の公立学校教員等採用試験の合格者が発表された。8倍以上の狭き門を通過した合格者は、来春より教員として教壇に立つ。私も20年前に企業勤めから一念発起し、教員になるために寝食を忘れて勉学に励んだことを懐かしく思う。

そんな中、10月26日付の本紙記事にショックを受けた。岡山県の中国自動車道で起きた、母娘が犠牲となった落下タイヤ事故だ。亡くなった岡山大教育学部4年の中村亜美さんは来春、岡山県の中学校教員として活躍を期待されていたという。記事にはインターンシップ(就業体験)先の、中学校教頭の「どんなことも誠実に取り組み、教員を目指して頑張っていた」との談話があった。胸が締めつけられるとともに、涙がこみあげてきた。一方、これから教師を目指す人たちに伝えたい。どうか夢を諦めず、可能な限り挑戦し続けて欲しい。「教師になっても、子どもたちにこんな指導をしたい」と夢見て、寸暇を惜しんで努力する、そんなあなたを学校現場は待ち望んでいる。鹿児島県の子どもたちすべての幸せのために、一緒に小さな汗をかこう。記事を読み、教員としての自覚と誇りを胸に刻み直す、そんな朝だった。(十島村 諏訪之瀬島)

【十島村の口之島小・中学校からのメッセージ】 教頭 平川 淳一

赴任して約8ヶ月、ここ口之島での仕事や生活にもだいぶ慣れてきました。(いや仕事はまだまだ?) 離島・小中併設校は経験済みとはいえ、かなりの少人数ということと初めての仕事に不安を感じていましたが、児童生徒は素朴で元気で一生懸命、先生方は熱心で協力的であり、素晴らしい環境で仕事ができます。十島村ならではのことが多く、これまで休みの度に部活動指導に励んできた私にとってはそれが新鮮で楽しいところです。例えば、今年度は先生方の提案で子ども会主催の口之島夕涼み会を行いました。初めての試みでしたが、地域の方々や関係者の多大な御協力をいただきながら、他の島の実施例を参考に屋台や縁日を楽しんでもらえることができました。また例年10月に文化祭、運動会を連日開催しています。多くの島外から帰島、来島される方々を迎え、一緒になって大いに盛り上げていただき、感慨深いものがありました。初めは大変だと思っていたこの取組も口之島の特色だと思えました。また今年度は、新聞や広報紙などで口之島の頑張りや取り組みをたくさん取り上げていただきました。これからの励みになっていること間違いありません。今でも日々学ぶことが多いこの口之島で、これまで赴任された先生方が残してくださったものをさらに発展させ、ここだからこそできる教育活動を模索し、自分自身の一員としてもっと力になりたいと思っています。

【『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ】

初めてのことであったり十島村ならではのこともあったりして、今まで通りにいかないこともありますが、自分の経験値を高める上でも柔軟性を持って対応していきたいと思っています。それぞれの学校で特色を出し切磋琢磨しながら、ここ十島村を盛り上げていきましょう。